

實の清十三男が後醍醐天皇の子孫

肉柔屋主人



その要を悉く考へて其の缺は是より補ふに便する事とてひのきむのりなり
多曲者然るに其の返付之不足は或者決めの仕業あり速に和歌集并に撰へし其跡

合卷下

主の宅に於て坐すを尊と云ふ。又、
 人の死を尊と云ふ。又、人の死を尊と云ふ。

[illegible]